

令和元年 10 月 1 日

学校法人 西鉄学園  
西鉄自動車整備専門学校  
校長 椎葉 小夜子

## 「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 30 年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、平成 30 年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第 189 条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（平成 30 年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ■学校関係者評価委員

	氏 名	所属等
企業・団体	自動車業界	奥 和昭 トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長
		西村 努 トヨタカローラ福岡株式会社 営業支援部 総合営業企画グループ グループ長
	業界団体	村川 英司 一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
	教育有識者	井上 武之 経歴：高等学校校長、篠栗町教育委員長
	卒業生	川上 康治 ヤナセバイエルンモーターズ株式会社 福岡本店 サービス課 係長
事務局（学内）	椎葉 小夜子	理事・校長
	矢ヶ部 友則	教 頭
	目原 宏輝	教務・就職課 課長
	阿納 弘通	総務・学生課 係長
	浅井 朋晃	広報課 係長

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(平成30年度版)

令和元年10月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
<p>(1) 教育理念・目標・育成人材像</p> <p>-----</p> <p>○理念等の達成に向け特色ある教育活動への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業関係者や卒業生との交流機会を設け、業界のニーズをつかみ人間力の育成に取り組んでいる。</li> <li>自動車整備士に求められるコミュニケーション力を高める教育の実施が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二級自動車整備士の資格取得支援や就職支援等、企業の求める人材に近づけるようにしっかりと指導し対応していると感じる。</li> <li>コミュニケーション力の課題改善には、教職員が研修等で対応能力や指導技術を高めていくことも必要。学生達の特色を活かした取り組みを期待する。</li> </ul>
<p>(2) 学校運営</p> <p>-----</p> <p>○理念等を達成するための事業計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期経営計画に沿って、各年度の事業計画を明確に策定している。</li> <li>毎年度、数値目標を念頭に置いて計画を策定し、常にその執行状況を把握し、進捗の共有化を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営は厳しい局面に立たされているが、引き続き整備士育成に尽力して欲しい。</li> </ul>
<p>(3)教育活動</p> <p>-----</p> <p>○教育目的・目標に沿った教育課程</p> <p>○キャリア教育の実施</p> <p>○資格・免許取得の指導体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土交通省規定のもと、自動車業界のニーズに照らし合わせ編成しているが、人間性成長の必要性を感じさせるための教育を企業側とより連携を深めて策定することが課題である。</li> <li>将来の希望就職先をなかなか決めることができない学生が退学へつながるケースがある。早期に方向性を定めることができるよう教職員と保護者が連携しフォローアップできる体制の強化が必要である。</li> <li>学力のレベル毎にクラス分けを行い、成績下位者は放課後に補習授業を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨今では不登校の子供たちが増加していると言われるが、フリースクール高校に通い社会復帰をし、立派な人材へ成長する人が多いことも事実である。心のケアが必要な学生が増加傾向にあることを認識し、学校は専門知識だけではなく、これまで以上に人間的成長を促す教育に力を入れることが大事である。それが学校の強みともなる。</li> </ul>
<p>(4)学修成果</p> <p>-----</p> <p>○資格・免許の取得率向上への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年の学生達は基礎学力での個人差が顕著に表れ、学校成績が上位、下位と二極化の傾向にあるため、成績下位者に如何に危機感をもたせ勉学に取り組ませるかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験に全員を合格させることが学校の責務。教育改善を図り、全学生を二級自動車整備士の試験に合格させてほしい。</li> </ul>
<p>(5)学生支援</p> <p>-----</p> <p>○就職等進路に関する支援組織体制</p> <p>○退学率の低減</p> <p>○学生相談に関する体制整備</p> <p>○留学生に対する相談体制</p> <p>○保護者との連携体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職講座、面接対策、SPI 対策等をカリキュラムに組み込み実施し、就職試験前には個別指導も実施している。面接試験ではコミュニケーション力の問題にもかかわるので、しっかりと指導に取り組まなければならないと考える。</li> <li>メンタルヘルス、学力不足、経済的問題、将来の方向性が明確ではない学生が増加傾向にあるため、面談等で将来を考える機会を作り、指導することが必要である。日本人学生、留学生共に学年担任が中心となり対応しているが、年々、心に疾患を抱える学生が増加傾向にあるため、教職員のメンタルヘルスに関する知識の更なる向上が重要だと考える。また、メールや LINE 等いつでも連絡が取れる手段の更なる利用も視野に入れる必要がある。</li> <li>学生個人の学習成果と現状を定期的に文書にて郵送している。近年、心に疾患を抱える子供達に対応することができない保護者も存在するため、それに対応できる専門家との連携を強化することが必要である。留学生は保護者への連絡ができないため、留学生本人にきちんと指導することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業でも定期的にメンタルヘルス研修を実施し、上司が部下の対応の仕方を学んでいる。学校でも教職員がメンタルヘルス研修を受講し、学生達の対応に備える方が良いのではないかと考える。</li> <li>留学生のメンタルケアに対する支援・整備の推進は重要。</li> </ul>
<p>(6)教育環境</p> <p>-----</p> <p>○教育上の必要性に十分対応した施設・設備等の整備</p> <p>○学外実習・インターンシップ等の実施体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習設備、教材、機器類については国土交通省規定に基づき定期的に補修・数量・校正等の管理を実施しているが、施設や設備面において、経年劣化が進んでいることが課題である。教材はスタンダード化してきた先進技術に対応するための教材導入の検討が必要だと考える。</li> <li>インターンシップ受け入れ企業と連携し、実践的な仕事体験ができるようなプログラムを作成している。今後も企業側担当者や連携を密にし、学生に配慮したプログラムの作成や実施期間の変更等が必要になると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進技術を学ぶことも大切だが、それ以上に自動車の基礎的な部分をしっかりと教えることに力を入れてほしい。近年、基礎知識が少ないまま就職し、その先の応用が利かない自動車整備士が増えてきたような気がするのでは是非お願いたい。</li> <li>実施日数をもう少し増やして、自動車業界や自動車整備士の1週間の仕事を体験するようなプログラムにすると、もっと実践的な充実したインターンシップになるのではないかと考える。</li> </ul>

<p>(7)学生の募集と受け入れ ----- ○接続する教育機関に対する情報提供の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校や日本語学校等に学校の教育方針や特色、自動車業界が求める人物像、教育内容、就職実績等を正確に伝えている。</li> <li>・ 教職員や保護者向けの学校案内は作成していないが、入学パンフレット及び募集要項を利用することで教育内容等の情報提供を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の強みと弱みを教職員が共有し、ステイクホルダーに学校の良さを今以上に発信することが大事である。</li> <li>・ 自動車整備業界の負のイメージを払拭するために、高等学校の教師や保護者を対象とした勉強会を実施し、イメージの改革を図る必要がある。</li> </ul>
<p>(8)財務 ----- ○学校の財務基盤体制  ○予算・収支計画の適正性  ○会計監査  ○収支状況の公開体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収支状況については、各月ごとに収入・支出予算対比表を作成し、現状把握をしている。留学生自動車整備士コース[3年制]設置し、経営基盤の安定に向けた取組みを推進している。</li> <li>・ 年度予算計画を作成し、目的に応じて適正に執行管理がなされており、課題は特に無い。</li> <li>・ 会計監査については、学園理事会において、学園監事による監査を実施している。</li> <li>・ 収支状況の公開については学校関係者評価開催日以降に公開予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に問題はない。</li> </ul>
<p>(9)法令等の遵守 ----- ○学校が保有する個人情報保護に関する対策の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に対する個人情報保護の啓発活動が不十分であることが課題である。今後、学生に対する個人情報保護に関する研修等を計画して実施することが必要だと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学時に個人情報取扱いに関する勉強会や研修を開催することは必要。コンプライアンスが厳しい時代なため、ポスターの掲示や事例の紹介等も含め定期的に啓発活動を行う必要がある。</li> </ul>
<p>(10)社会貢献・地域貢献 ----- ○学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来の仕事として自動車整備業界を選択する学生の拡大が課題である。今後、地域参加型の学園祭や子供向けイベントを企画し、自動車整備士の楽しさや仕事のやりがい等の情報を発信していくとともに、自動車業界の探求や体感を通して自動車整備士の仕事理解を深め、将来の自動車整備士の確保に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生だけを集めたイベントを開催し、現在の職場環境や働き方等を伝えたり、自動車整備士の仕事を一緒に体験したりする機会を設けてはどうか。各社の作業着姿の自動車整備士が一堂に集まる機会は一般的になく、各社の取組みや業界を理解する一助になり、自動車に興味を持ってもらえる機会にも繋がる。</li> </ul>
<p>(11)国際交流 ----- ○留学生の受入れ・実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 留学生自動車整備士コース[3年制]を設置し、留学生の募集を開始した。留学生が希望する企業に就職するために、日本語能力の向上や日本文化理解等、教育内容を如何に組み立てていくかが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門学校卒業及び国家資格取得者が業界に就職すれば、技能実習生とは異なり在留期間の制限を受けず、企業にとっても必要な人材となるので、国家資格を取得するよう尽力してほしい。実践的な学習は重要であり、技能実習生との差別化を図るカリキュラムの構築を望む。</li> <li>・ 日本語の上達には、日本人学生との交流の場を多く作ることが望ましい。交流機会の設置を期待する。</li> </ul>